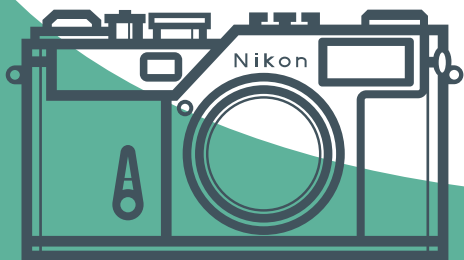
Nikon S3

YEAR 2000
LIMITED EDITION

ニコンS3の使い方

はじめに

このたびは、ニコンS3 2000年記念モデルをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このカメラは、昭和33（1958）年3月に発売されたニコンS3を、撮影フィルムの規定枚数表示など、現在の事情に合わせて施した一部の改良点を除いて、ほぼオリジナルどおりに再現した、西暦2000年記念の限定版復刻モデルです。
ニコンS3は、当時の精密光学技術を結集した、ニコンレンジファインダーカメラの最上位機ニコンSPの主要な機能をそのまま継承しながら、よりお求めやすい価格を実現することによって、写真撮影の楽しさを多くの方々に提供した、画期的なカメラでした。
そして今回、西暦2000年記念の限定モデルとして復刻する機種をニコンS3としたのも、ただ飾っておいていただくためだけの記念碑ではなく、写真を、カメラを、ニコンを愛する方々に、大切に使っていただきたいという願いを込めてのことでした。
それでも、現在の随所に自動化が進んだカメラに慣れ親しんでおられる方々は、あたかも撮影者に多くのスキルを要求するかのような、未体験の操作性に当惑されるかもしれません。どうか、この使用説明書をよくお読みいただき、古くて新しい、写真撮影のもうひとつの楽しさを、存分にご堪能ください。

この使用説明書について

・この使用説明書は、ニコンS3発売時（昭和33年3月）の使用説明書の記載内容を、可能な限り再現して作成しております。カメラともども、当時（昭和30年代）の雰囲気をお楽しみください。

・なお、このため、操作部名称や表現方法等、現在発売中の他のニコン製品とは異なる部分があります。また、現在発売されていないアクセサリー等についての記述も含まれています。あらかじめ、ご了承ください。

ご使用になる前に

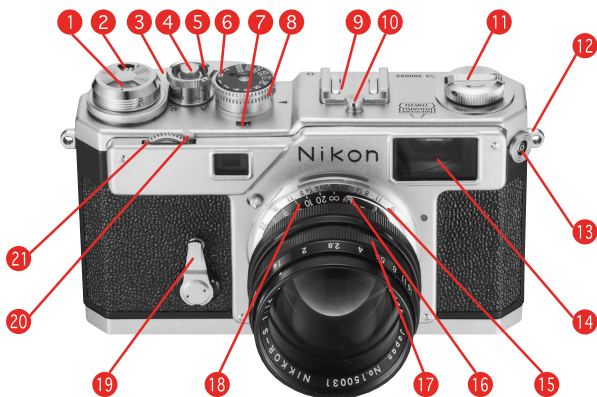
・ニコンS3発売当時の交換レンズ、その他アクセサリーは、このカメラに装着することはできますが、発売より相当年数が経過しておりますので、動作および性能は保証いたしかねます。ご注意ください。

・このカメラは布製シャッター幕を使用しております。幕焼けの恐れがありますので、撮影時以外はレンズキャップを装着するなどして、直射日光等の強い光がレンズに差し込まないよう十分ご注意ください。

・このカメラのアクセサリーシューは専用のフラッシュガン、露出計、ファインダー等（現在は販売致しておりません）を装着するためのもので、ホットシュー等のダイレクト接点はありません。取り付け脚に接点のあるスピードライトは、直接アクセサリーシューには取り付けないでください。取り付ける際は、テープ等で接点を絶縁してください。

各 部 の 名 称

1

背　面　図

23.　距離計ファインダー覗き窓（ファインダー接眼窓）
24.　フィルムISO感度表示盤
25　三脚孔（三脚ネジ穴）
26.　裏蓋開閉用キイ（裏ぶたロックレバー）

（　）内の表記は、現在販売されているニコンカメラで使用されている名称です。

前　面　図

1. 自動コマ数表示盤（フィルムカウンター）
2. フィルム長さ表示窓（規定撮影コマ数表示窓）
3. シャッター捲上げレバー（巻き上げレバー）
4. シャッター押しボタン（シャッターボタン）
5. フィルム捲戻し切換えリング
6. シャッター目盛盤（シャッタースピードダイヤル）
7. シンクロセレクター窓
8. シンクロセレクター
9. アクセサリーシュー
10. 挿入式フラッシュ用接点
11. フィルム捲戻しクランク
12. 負革どめ（吊り金具）
13. シンクロソケット（シンクロターミナル）
14. 距離計ファインダー窓
15. 焦点深度目盛（被写界深度目盛）
16. レンズ着脱用バネ
17. レンズ絞りリング
18. 距離目盛
19. セルフタイマー
20. 無限遠どめ
21. 焦点調節ギア
22. レンズ前蓋（レンズキャップ）

安 全 上 の ご 注 意

ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

表 示 に つ い て

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告・注意の詳細につきましては、P.7をご参照ください。

絵 表 示 の 例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

○記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠警　告

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

破損部でケガをする原因となります。
販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

警　告

ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

⚠注　意

保管注意

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります

ご確認ください

■保証書とご愛用者カードについて

この製品には保証書を添付してありますので、ご確認ください。

- 保証書の詳細につきましては、P.38の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1〜2年に1度は定期点検を、3〜5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

■本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製の専用レンズ、アクセサリーに適合するように作られておりますが、組み合わせて使用できるレンズ、アクセサリー等は販売されてから相当の年数が経過しているため、動作につきましては、本カメラの付属品である50mmF1.4レンズとの組み合わせのみを保証しております。

- 他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

付属品（お確かめください）

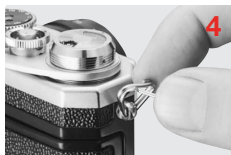
50mm F1.4用レンズ前蓋

レンズフード

三角環
（プラスチックカバー付き）

三角環の付け方

1. 三角環の折れ曲がっている部分を負革どめ（吊り金具）に差し込み、三角環を回して取り付けます。

2. 三角環の折れ曲がっている部分を折ります。

3. プラスチックカバーを取り付けます。

目　次

ニコンS3 2000年記念モデルの使い方（P.11～P.29）

付　録（P.30～P.36）

ここでご紹介しているレンズやアクセサリーは、現在販売しておりません。

ニコンS3 2000年記念モデルの使い方

6

標準レンズ（付属）の外し方・付け方

レンズを交換するためにカメラからレンズを取り外すには、

1. **距離目盛を∞（無限遠）に合せます。**
2. **左手親指でレンズ着脱バネを押します（第6図）。**
3. **レンズの着脱バネを押したまま、右手で鏡胴（レンズ本体）の突起の赤点がカメラの方の赤点に合うまで鏡胴を右（レンズに向かって見て）に廻しますと、レンズは外れます。**

レンズをカメラに再び取り付けるには、上記の手順を逆にすればよいのです。

カメラは、レンズのある場合はレンズを、レンズのない場合にはレンズ孔※1を、直射日光に当ててはいけません※2。この際カメラの前面を掌または身体で隠します。

※1：カメラボディ正面の、レンズ取り付け部の穴のことを言います。

※2：シャッター幕が布製のため、直射日光により幕焼けする恐れがあります。特にレンズ装着時は、撮影時以外はレンズ前蓋を取り付けておいてください。

レンズフードの付け方・外し方

付属の50mm F1.4にはスプリング式のフードが付属しております。

レンズはなるべく常にフードをつけてご使用になることをおすすめ致します[※1]。斜前方又は側方から強い光がレンズに入る場合にはフードは絶対に必要となります。

フードを装着するには、フード両側のボタンを指で押しこんで、レンズ前端のフィルター取り付けネジ部に当て、ボタンから指を離してフードを右へ（時計の針の方向に）止まるまで確実に廻すと取り付けられます（第7図）。

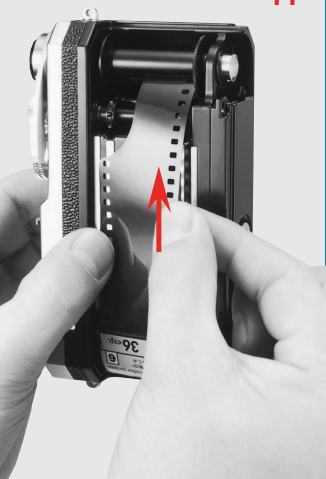
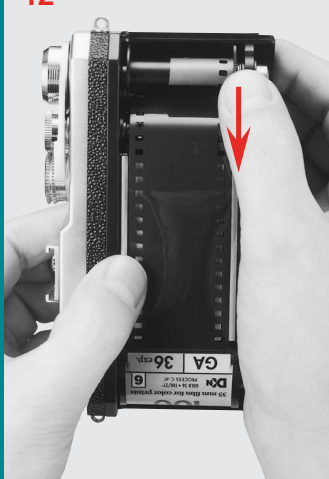
フードを外す場合は、フードを左へ（時計の針と反対に）廻してから、ボタンを指で押しこめば取り外せます。

又、不用時には逆にしてレンズにかぶせて取り付けられ、更にその上からレンズ前蓋を取り付けられます（第8図）。

※1：ただし、フードを装着するとファインダーをのぞいたときに視界の一部がケラレますので、必要に応じて取り外してください。

7

8

カメラへのフィルム装填

カメラの裏蓋を取り去るには、カメラの底部にある開閉用キイの矢印をopenに廻して（第9図）、裏蓋に親指をあてて押し出すようにして静かに取り外します（第10図）。

ここで一旦、シャッターボタンの周縁のフィルム捲戻し切換えリングをR※1（第13図）に廻します。

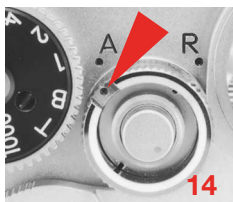
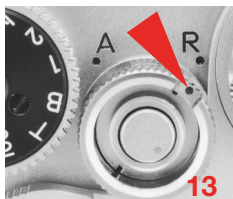
そして、フィルムパトローネをスプールと反対側に納めます。フィルムは一般市販の35mmサイズパトローネ入りのものがすべて使えます※2。

次にパトローネからフィルムを10cm程出します。そしてスプールの溝にさし込んで、溝のふちの突起にフィルムの穴をかみ合わせたならば（第11図）、スプールの下をくぐらせて捲きます。フィルムをおさえながら（第12図）スプールにたるみなく捲けましたならば、カメラの裏蓋をかぶせます。そして開閉用キイの矢印をcloseに廻せば、フィルムはカメラに装填されたこととなります。

しかしここでフィルム捲戻し切換えリングをA（第14図）に廻すことを忘れてはなりません。そして、シャッターを切り、シャッター捲上げレバーで捲上げる動作を、フィルムコマ数が1を示すまで数回繰り返し、装填中に感光した部分のフィルムを送っておきます。

なおこのカラ撮りの捲上げの際、捲戻しクランクが矢印と反対方向に廻ればフィルムが正しく送られていることがわかります。

もし装填後捲上げレバーを操作する前に切換えリングをAに合わせることを忘れ、Rに合せたままでレバーを捲上げると、その度にフィルムは前進しますが、シャッターはかかりませんので、フィルムは無駄となり、次に述べる自動コマ数表示盤の指示が狂います。

※1：A=Advance…フィルム巻き上げ時にセットします。
シャッターチャージも行われます。
R=Rewind…フィルム巻き戻し時にセットします。
巻き上げレバーの操作でフィルムの巻き上げは行われますが、シャッターチャージは行われません。
※2：S型用ニコンマガジンの使用は保証致しておりません。

フィルムの捲上げ

捲上げレバーを止るまで親指で右に押しますと（第15図）、レバーは手を離せばもとへ戻りますが、完全にもとの位置にはおさまらず、いくらかの間隙が出来ます。これは次の捲上げがし易いようにしてあるのです。指でちょっと押し込めば完全におさまります。

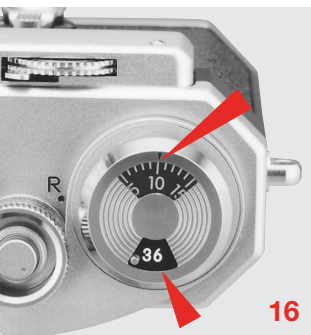
シャッター目盛盤は中心部だけが、捲上げの際及びシャッターを切る際に廻転します。中心部の指標（黒点）がシャッター秒時をセットする外側の指標と合致していれば、シャッターが捲上げてあることがわかります。

親指はシャッターを捲上げたならばカメラの裏側にあてます。そして右手の中指で焦点調節ギアを廻しながら、焦点合せと構図決定を行い、人差指をシャッターボタンにかけ、カメラを両手で握りこみます。

1/30以下の遅い速度のシャッターを切る場合は、手ブレを防ぐため、必ず三脚または何等か固定した台を使用して下さい。

自動コマ数表示盤

この表示盤（第16図）はカメラの裏蓋を開くと同時に、自動的に出発点（ゼロ以前）に戻るようにしてあります。フィルムを装填したならば、15頁で述べたようにコマ数表示盤が1を指すまで数回カラ写しをします。それ以後、撮影を進めるに従って、露出済みのコマ数が36まで自動的に示されます。但し36を過ぎれば示しません。

16

フィルム長さ表示窓

これは自動コマ数表示盤の向い側（第16図）にあります。爪で突起を引っかけて36又は24のいずれかにしておけば、装填したフィルムの長さを表示出来ます。

フィルムISO感度表示盤

これはカメラの底部（第17図）にあります。装填したフィルムのISO感光度を示すためです。

なおEとあるのはEmptyの意味で、フィルムを取り出した際ここにセットしておきます。

17

露出の操作

18

シャッター速度の選択

シャッター速度目盛（第18図）のセットはシャッターの捲上げの前でも後にでも行うことが出来ます。

シャッター目盛盤上の数字はシャッター速度を示し、例えば1は1秒、60は1/60秒の意味です。

目盛を読む指標は目盛盤の外側にあります。

目盛盤をセットするにはその周縁のダイヤル部をどちらの方向に廻しても差支えありません。

この場合クリックによって各目盛で止ります。クリックの中間にとめて使用されてもよいのですが、必ずしも中間の速度が得られるとは限りません。

目盛盤をB（バルブ）に合せますと、シャッターはシャッターボタンを押している間だけ開きます。

目盛盤をT（タイム）に合せシャッターボタンを押せば、シャッターが開いたままとなり、指を離しても閉じません。閉じるには目盛盤ダイヤル部を右または左に廻し、目盛盤の数字をB又は1000にします。

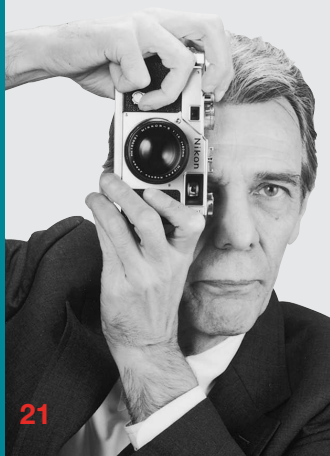
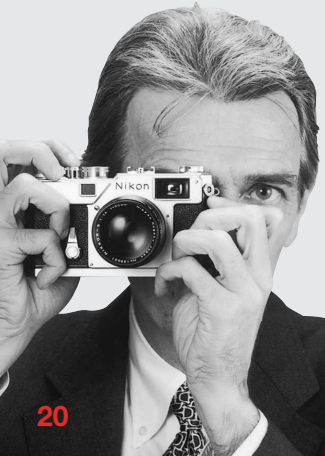
シャッター目盛の数字は緑色と赤色と白色とに色分けにしてありますが、これはフラッシュシンクロセレクターのセット（28頁参照）をわかりやすくするためです。

絞りの選択

レンズを絞るには、レンズ鏡胴の絞りリングを廻してFナンバーの数字を白点に合わせます（第19図）。

Fナンバーの数が大きければ、それだけ実際の絞りが小さくなります。そしてFナンバーの系列はナンバー毎にレンズの明るさが2倍だけ増減するようになっており、またニコンカメラのシャッター速度の系列は2倍づつ変化しますので、Fナンバーとシャッター速度（露出時間／秒）との関係は例えば次の如くなります。

Fナンバー	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
露出時間／秒	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8

この関係は被写体の明るさが同じならばFナンバーを右に進める（絞り込む）ごとに露出時間は2倍にしなければならないことを示します。しかしこの表はただ2倍という比率関係を示す例であって、上下の数字の組合せが常に適正なFナンバーとシャッター速度であるという意味では決してありません。

カメラの構え方

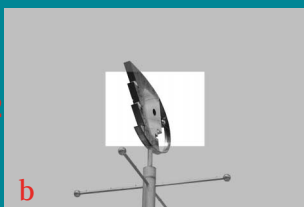
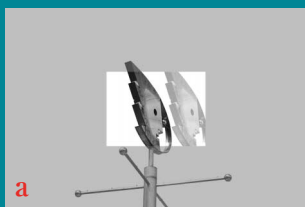
シャッターを切る際のカメラぶれを避けるために、カメラをしっかりもつことは、鮮鋭な作画を得るための絶対必要条件です。

従ってカメラを横にもつ場合にはカメラを頬にあて（第20図）、縦にもつ場合には額にあてる（第21図）ことをおすすめします。シャッターボタンは静かに押して下さい。

なおこの際撮影者は足を開いて手のひじは体につけ呼吸は射撃の時のように止めるのもよいことでしょう。

撮影前に
レンズの前蓋を取り
忘れないで下さい

両側のボタンをおして着脱します。

焦点合せ

ファインダーの窓をのぞいて見える視野の中心に明るい四角の部分があります（第22図）。焦点調節ギアについている無限遠どめを押し（第23図）、ギアを廻しながらその部分に見える被写体の二重像（第22図a）を合致させれば、

その被写体に対してレンズの焦点が合ったことになります（第22図b）。合致を正確に見るためには、カメラを横にもつ場合は、被写体内の垂直方向の線を選ぶと好都合です。またカメラを縦にもつ場合は水平方向の線を選ぶと好都合です。

被写体までの距離は、二重像を合致させた瞬間に距離目盛の数字を指標で読めばよいのです。

構図の決定

　このカメラのファインダーには最外側に広角レンズ(35mm)、その内側に標準レンズ（50mm）、更にその内側に望遠レンズ（105mm）の各レンズの視野を示す白色の光像枠が見えます（第24図）※。

　そこでカメラに取り付けたレンズが広角（35mm）であ

24

るか、標準（50mm）であるか望遠（105mm）であるかに従って、それぞれの光像枠を選び構図を決定することになります。

　なおそれぞれの光像枠には近距離時のパララックス（視差）を示す補助マーク（枠線の突起及び三角印）がついておりますから、もし被写体距離が2メートル近辺の近距離時には、補助マークによって示されただけ画面をずらして下さい。こうすれば近い被写体の場合でも頭や側部が切れて写ることを防げます。

※：付属の標準レンズ50mmF1.4以外の交換レンズ、専用ファインダー等は現在は販売致しておりません。

焦点深度の確認

焦点深度とは、レンズの焦点を合せた或る距離にある被写体の前後どれだけの範囲が十分に鮮鋭な像として得られるか、その奥行のことです。この深度はレンズのFナンバー（f：1.4、f：5.6、f：8など）と焦点を合せた被写体迄の距離とに関係し、Fナンバーの数が小さければそれだけ被写体の前後で鮮鋭となる深度は浅くなり、また被写体の距離が近ければそれだけ深度は浅くなります。

ニコンカメラでは別の焦点深度表を参照する必要はありません。レンズの取付基部に焦点深度計がついておりますから、深度はこれによって直ちに読みとることが出来ます。次にその読取方の一例を示しておきます。

例

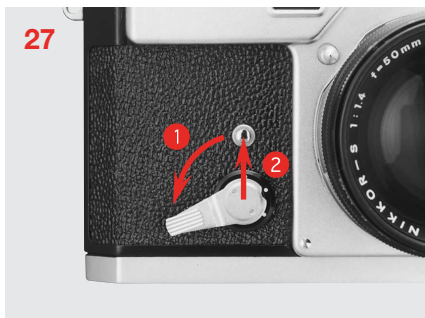
いま仮に被写体の距離を5メートルとします。この距離にレンズの焦点を合わせますと、焦点深度計の指標に距離目盛は5と出ます（第25図）。そこでレンズをf：8に絞った場合の焦点深度は、指標の両側の8という数字によって読める距離範囲となります。即ち約3.5から10メートルまでの間であります。

いい換えますとカメラから3.5メートルより遠くて10メートルより近い被写体ならば絞りf：8の場合に十分鮮鋭な像が得られます。更にこれより前後にはずれた被写体は次第にぼけてしまうわけです。

フィルム面の位置

カメラ上蓋のアクセサリーシューの近くにつけてある-⊖-というマーク（第26図）はカメラ内に装填したフィルム面の位置を示します。これは近接撮影の際などに被写体距離を厳密に定めたいときの基準点として利用します。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーによって撮影をするには、セルフタイマーレバー（第27図）を図で示すように矢印の方向に廻します。そしてシャッター速度をセットし、シャッターレバーの捲上げを行っておけば、セルフタイマーレバーのすぐ下にあるボタンを押しますと、セルフタイマーは作動し始め、ジーと音がしてセットした時間後に自然にシャッターが切れます。シャッターレバーの捲上げは、セルフタイマーを

かける前でも後でも差支えありません。

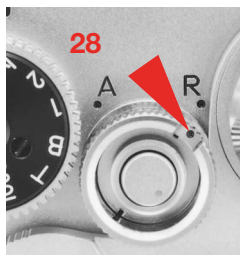
セルフタイマーの作動時間はこのレバーを捲く量（角度）によって最短3秒乃至10秒の間で調節出来ます。この角度は大体三つの白点によって示されていますが、少くともレバーの他端の凹み（黒線）が最初の白点に到達するまで捲きませんと作動しません。

セルフタイマーは1/1000～1秒のシャッターに使用します。B にセットした場合はシャッターは開きますが露出時間をセットすることは出来ません。Tにセットした場合は、シャッターは開いたままとなり、シャッター目盛盤を廻さないと閉じません。

セルフタイマーをかけた後にこれを使用しないことになってもシャッターボタンを押して撮影出来ます。但し、この場合あとでセルフタイマーはかけたままにしておかないで下さい※。

※：撮影後、シャッター巻き上げレバーを操作する前にセルフタイマーボタンを押し、セルフタイマーのみを作動させて、セルフタイマーを解除してください。

二重露出撮影

特殊な理由により故意に二重露出をしたい場合には先づフィルム捲戻し切換えリングをRに合せます（第28図）。次に捲戻しクランクを矢印方向に廻して、シャッター押ボタン上の赤点が一廻転と少し余分に廻るまでフィルムを捲戻します。そして切換リングをAに戻してから、シャッターレバーを捲上げ、第二の露出のためにシャッターボタンを押します。この際一度目と異るシャッター速度を与えたければシャッター目盛盤をセットし直せばよいのです。

なお二重露出によって自動コマ数表示盤は1コマ分余計に表示されます。

（注意）
一回目と二回目の露出の際、コマ位置は、フィルムのたるみ、カーリング、巻き上げの緩急などにより、若干のズレが生じる場合があり、完全にコマ位置を合せることはできませんのでご注意ください。

赤外線写真撮影

赤外線写真撮影に当って焦点を合せるには、まず距離計の二重像合致を行い、それから距離目盛を読みます。そしてレンズの右方（レンズに向って見て）に少しばかり廻転し、求められた距離を次の表に示す位置までずらせます。このずらせる量はレンズの種類によって次の通り異りますことにご注意下さい。

標準レンズ50mm	F：2	2.8まで	いずれも焦点深度目盛上で右側の方の各数字の示す刻線です。（下図参照）
	F：1.4※1	4まで	
	F：1.1	5.6まで	
他の交換レンズ※2		レンズ鏡胴上のRのついた赤線または点	

ここの例では（第29図）距離目盛が5メートルと出た場合です。そこで5の目盛をレンズの種類によって右に各深度数字が示す刻線まで廻します。

※1：付属50mmF1.4の場合。
※2：付属の標準レンズ50mmF1.4以外の交換レンズは、現在は販売致しておりません。

フィルムの捲戻し

　全フィルムの撮影がすめば、これを取り出して新しいフィルムを入れ換えなければなりません。これにはフィルムをパトローネに捲戻します。

フィルムをパトローネに捲戻すときは、以下の操作を行います。
　先ず裏蓋を開く前にシャッターボタンのところの捲戻しリングをRに廻してから（第30図）捲戻しクランクを起して、矢印の方向に廻して行きます。
　捲戻しを始めると、シャッターボタンも廻転します。ボタン上部の赤点で確認出来ます。
　フィルムが完全に捲戻された時には一旦抵抗を感じますが、更に廻せばフィルムがスプール、スプロケットから外れ、シャッターボタンも廻らなくなり急に軽くなります。
　裏蓋を開けてフィルムパトローネを取り出します。

フラッシュ撮影

<スピードライト撮影の場合>

・スピードライトの接続

　スピードライトを接続する際にはスピードライトに接続したシンクロコードのプラグ部分を、シンクロソケットに差し込みます（第31図）。

（注意）

　本製品のアクセサリーシューは専用フラッシュガン、専用露出計、専用ファインダー等（現在、販売は致しておりません）を装着するためのもので、ホットシュー等のダイレクト接点はありません。取り付け脚に接点のあるスピードライトは、直接アクセサリーシューには取り付けないでください。取り付ける際は、テープ等で接点を絶縁してください。また、挿入式フラッシュ用接点（アクセサリーシュー前部）も専用フラッシュガン用であり、現在のスピードライト等には対応致しておりません。

・シャッター速度のセット
（第32図）

　シャッター速度は60またはそれ以下の低速度側にして下さい。但し、タイムラグのあるスピードライトではそのタイムラグに応じてシャッターを30またはそれ以下にして下さい。

・シンクロセレクター（FX）のセット

　セレクターをセットするには、シャッター目盛盤の周囲のダイアル部を指で持ち上げて左右いずれかに廻します。シンクロセレクター窓にはセレクターを右に廻すに従って、右図の順にマークと文字が現れますので「FX」を選択します。

　尚、セレクターの右廻転は緑マークで止まり、左廻転はFXで止まるようにしてあります。この限界を超して無理に廻さないで下さい。

<フラッシュガンの場合>

　付録の「専用フラッシュガン」（32頁）を参照して下さい。

速写ケース（別売）

カメラは速写ケース（第33図）に入れたならば底のナットを締めて下さい。
このナットにはネジ孔があって、カメラをケースに入れたまま三脚に取り付けることが出来ます。
速写ケースは前蓋だけを取り外すことが出来ます。
前蓋は、これをただ引張ってもとれません。第34図に示すように底部のナットの両側まで来ている前蓋の末端部を後方（カメラのレンズと反対側）からめくるように致します。
前蓋を取り付けるには、末端部のボタンをただ平らに押したのではとまりません。取り外した時と丁度反対に、先ずスナップの突起の前側（カメラのレンズ側）にスナップ孔内側を引っかける（第35図）ようにして入れてから全体を押します。

付　録

ニコンS3発売当時に販売しておりました「交換レンズ」「専用フラッシュガン」「ファインダー」「ニコン用連動露出計」の使用方法を記載致しました。

いずれの製品も、現在は販売致しておりませんので、あくまでご参考としてお読みください。

なお、これらのアクセサリーは、このカメラに装着することはできますが、発売より相当年数が経過しておりますので、動作および性能は保証いたしかねます。ご注意ください。

交換レンズ

カメラに望遠または広角レンズを取りつけるには、

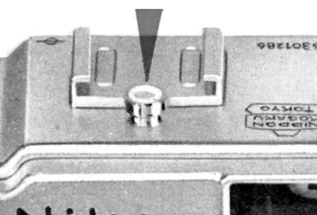
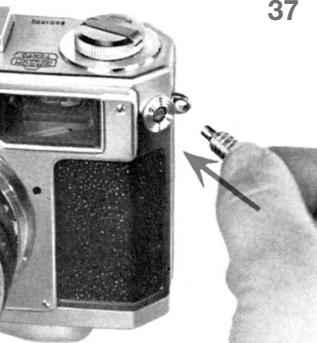
1. カメラとレンズの距離目盛は両方とも∞（無限遠）にセットしておきます。
2. レンズをカメラのレンズ孔に入れ（第36図）、この際鏡胴の赤点をカメラの赤点の位置に合せます。
3. そこでレンズを左へ（時計の針と反対に）カチリといって停るまで廻します。
4. この位置で鏡胴上の爪が元に戻ることを確かめて下さい。

36

レンズの取り外しは爪を押しながら上記の手順を逆にすればよいのです。

望遠レンズの焦点合せはカメラの焦点調節ギアによって行うのでなく、鏡胴のリングを廻して行います。

カメラの距離計と連動するニコンS型用交換レンズは、25mmから135mmまでです。180mm以上の望遠レンズでは連動しません。専用レフボックスをカメラとレンズとの間に取りつけ、レフボックスの焦点ガラスを見て焦点合せと構図決定を行います。

37

フラッシュガン（例えばニコンBC3型）を用いる際には、コードのプラグをシンクロソケット（第37図）に挿し込みます。

ポケット型フラッシュガンBC4型の場合には、これをカメラのアクセサリーシューに挿し込めば、そのままアクセサリーシューの直ぐ前にある接点（第38図）に接続し、コードを用いる必要はありません。

いずれにしてもご使用になる閃光電球の種類とシャッター速度とによって、シンクロセレクターを下の表に示すようにセットすればフラッシュは完全同調致します。

38

閃光球			シャッター速度											
	マツダ	ウエスト	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B
FP	No. 6 No. 6Z	No. 6 No. 6Z			●		●			○ F				
F	F 1 F 3 F 5	SM SF SS	—	—	—	—	○ F			F X				
M	Press	P 5	—		●		●			○ F				
	No. 0 No. 3 No. 5	No. 0 No. 3	—	—	—	●	●			○ F				
	2 M	2 M	—	—	—	—	—			○ F				
X	ストロボ タイムラグなし		—	—	—	—				F X				
	ストロボ タイムラグあり		—	—	—	—	—			F X				

閃光電球としてはなるべく上表で示すように小型FP級又はF級のものをご使用下さい。小型FP級の場合にはシンクロ窓のマークの色を、またF級の場合にはFの文字の色をシャッター目盛盤の数字の色と一致させればよいことになります。

※シンクロセレクターのセットのしかたは本文中の「フラッシュ撮影」(28頁)を参照して下さい。

ニコンカメラS3の内蔵ファインダーには広角（3.5cm）標準（5.5cm）及び望遠（10.5cm）の各レンズの画角を示す光像枠が入っておりますから、これらのレンズを用いる場合には別にファインダーは必要となりませんが、これら以外の焦点距離のレンズを用いますときには別にそれぞれ専用ファインダー或は万能ファインダーをカメラのアクセサリーシューに取付けて正しい画角を決定しなければなりません。

専用ファインダー（第39図）

広角2.5cm*及び2.8cm望遠8.5cm及び、13.5cmの各レンズ用ファインダーです。

39

望遠用のファインダーにはパララクス（視差）匡正装置がついております。
*2.5cm専用ファインダーは2.5cmレンズの付属品として、レンズと一緒に発売されております。

万能ファインダー

万能ファインダーは専用ファインダーと異り2.8cmから13.5cmまでのニッコールレンズ全部に亘って共用出来るファインダーです。これには変倍式と正像式との二種類があります。

変倍式万能ファインダー（第40図）

　このファインダーの前窓をカメラの前側に向けてアクセサリーシューにカメラ背側から押し込みます。そして使用されるレンズの焦点距離によってファインダーの目盛（前部）をセットします。

　但し2.8cmレンズご使用の際はファインダーの目盛は3.5にしておき、別にお求めの2.8cm用アタッチメントレンズを前方の窓にかぶせます。

　次に被写体の距離によってファインダーのパララクス目盛（後部）をセットします。パララクスとはファインダーがレンズと同一場所になく、僅かに上及び側方に離れていることに原因し、近い被写体に対して画角が多少ずれることです。なお焦点距離目盛の指標は被写体が5フィートまたは以下の場合には赤い方を、5フィート以上の場合には黒い方を用います。これは遠い被写体に対する近い被写体の画角の僅かな差（上述パララクスとは異ります）を調節するためです。

40

41

　また数字のない目盛が二ヶ所あります。これはそれぞれファインダーの像が実物に対して1倍または0.5倍に見える所です。

正像式万能ファインダー（第41図）

　このファインダーの操作も前述の変倍式と同様ですが、ただ、この正像式では視野範囲が明瞭に示されて焦点目盛のセットによって変化し、像自体の大きさは、変倍式の場合と異って常に一定であります。

　これには数字のない目盛はありません。

ニコン用連動露出計

ニコンS3型にはそのアクセサリーシューにニコン用連動露出計を取付けられます。これはカメラを被写体に向け、露出計の絞り目盛盤をレンズの絞りによって指針の示すところまで廻転させるだけで、シャッター目盛がセットされ、すぐに適正露出が与えられるようになっております。

42

43

使用法

先づ露出計をアクセサリーシューに挿し込み、指で少し引離しながら（第42図）、カメラのシャッター目盛盤を廻して、これの外周の歯車を露出計の底部にある歯車にかみ合せるのですが、この場合露出計の側面そして底部歯車の上方にある矢印にカメラシャッター目盛盤の1000を合せ、露出計上面の指標で読める速度目盛の数字も同じ数字の1000を指すように致します。

次にカメラに装填してあるフィルムの感度に合せて露出計上のASA目盛盤をセットします。

撮影に当り、被写体に露出計の前面窓を向けますと指針が動きます。カメラの方のシャッター目盛盤を廻転しながら（第43図）、カメラのレンズに与えた絞りと同じ数字が指針のところに来るように致します。これでシャッター目盛盤はその時の適正露出時間にセットされたことになりま

す。或はまた反対に目的とするシャッター速度をカメラのシャッター目盛盤上でセットすれば、指針によって露出計の絞り目盛が指示され、これがこの時レンズに与えるべき適正絞りであることがわかりますので、レンズの絞り値をその値に設定します。

被写体が明るい時には露出計の前面の開閉扉を下ろし、絞り目盛は黒色の数字の方を用い、多少暗ければ、扉は蝶番の左端を押して（第44図）上げて、この場合絞り目盛の赤文字の方を読みます。

また更に被写体が暗い場合には、露出計の側面に増幅器をさし込みます（第45図）。そして絞り目盛の数字はやはり赤色の方を用いますが、この際露出計の速度目盛をセットし直す必要があります。即ち速度目盛の指標として副指標■を用いて、速度数字を読取ったならば、この数字を主指標▼まで動かし、シャッター速度を2段ずらします。

もしシャッター速度が一秒以上に出る時にはシャッター目盛盤はBで止って動きませんから、露出計の方の速度目盛盤を廻すことによって絞り目盛を指針に合せます。そして速度目盛盤上で適正露出時間を読み取り（15秒まで読めます）、これによってBにセットしたままシャッターを正しく押します。但し露出計上の速度目盛盤は指を離せば自然に戻って2秒を示すことにご注意下さい。

なおこの露出計は反射光式ですから、入射光を測定される際には備付の乳白板を露出計窓に（もし増幅器使用の時にはこれにも）挿入して下さい。

カメラの手入れと取り扱いについて

カメラを末永くご使用いただくために、普段から心掛けていただきたい、取り扱い上の注意や、お手入れの方法などをまとめてあります。

使用禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと

火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

■ カメラ本体を手入れする際の注意

●カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。
特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

■ レンズを手入れする際の注意

●レンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
万一レンズに指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

■ 強いショックを与えないでください。

●カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

■ シャッター幕に触れないでください。

●シャッター幕は非常に薄い布製の幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。
シャッター幕のキズ、変形、破損などの原因となります。

■ カメラをご使用にならないときは、必ずレンズ前蓋を装着してください。

●このカメラは布製のシャッター幕を使用しており、直射光等の強い光にさらしますと、シャッター幕を痛めたり、漏光の原因となることがあります。

■ 極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。
…カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

■ 水しぶきなどがかからない場所で使用してください。

このカメラは防水構造ではありません。もし水滴がついた場合はすぐに乾いた布で拭き取ってください。

■ 風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。
…ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。
…保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。
…乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどきとりかえてください。
…カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1カ月を目安に、数回シャッターをきってください。

■ 長期間使用しなかったときは、フィルム装填前に数回シャッターをきってください。

このカメラは、ニコンS3発売当時の古いタイプのメカニカルシャッターを復刻して使用しています。フィルム装填前に数回シャッターをきり、馴染ませてからご使用ください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は最寄りのニコンサービスセンター、サービスステーション等、当社サービス機関へお寄せください。

●当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

●ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年間を目安としています。

●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。
なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

●水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。
なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑤ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕 様

ニコンS3 2000年記念モデル 仕様

形式	35mm距離計連動式フォーカルプレーンシャッターカメラ
使用フィルム	35mmフィルム
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ニコンSマウント（バヨネット式）
シャッター	横走りゴム引き布幕式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	T、B、1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1000秒 等間隔目盛
距離目盛	m表記（∞～0.9）
セルフタイマー	接続時間可変式（3、6、10秒の目盛付き）
シンクロ接点	タイムラグ可変式、シンクロソケット付き、スピードライトは1/60秒以下で同調
ファインダー（視野枠付き）	光像式等倍ファインダー、35mm、50mm、105mm光像枠付き
フィルム感度	ISO感度表示
フィルム巻き上げ	一作動レバー式、136°回転、小刻み巻き上げ可能、予備引出角15°
フィルム巻き戻し	クランク式
コマ数計	自動復元順算式
裏蓋	着脱式（モータードライブには非対応）
大きさ（ボディのみ）	約136mm（幅）×81mm（高さ）×43mm（奥行）
質量（重さ）	約590g（ボディ）、765g（50mmF1.4付き）

ニッコール50mmF1.4仕様

レンズ構成	5群7枚
焦点距離	50mm
開放F値	F1.4
絞り目盛	F1.4～F16
距離目盛	なし、カメラ側距離目盛を使用
画角	46°対角線
最短撮影距離	0.9m
アタッチメントサイズ	43mm（P=0.75）
フード	43mmスプリング式
キャップ	43mmスプリング式
大きさ	約51mm（径）×49mm（長さ）
質量（重さ）	約175g

Nikon

お客様各位

このたびは「ニコンS3 2000年記念モデル」をお買い上げいただき、ありがとうございました。ご注文いただきましてからお届けいたしますまで非常に長いお時間を頂戴いたし、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。この「ニコンS3 2000年記念モデル」は、西暦2000年という年を記念して42年前の「ニコンS3」を出来るだけ忠実に復刻したものです。
このカメラを通じてニコンのクラフトマンシップの一端をお楽しみいただければ幸甚に存じます。

■ 50mmF1.4レンズの絞り指標について

カメラに装着した状態でのニッコールS 50mm F1.4レンズの絞り指標は、レンズが無限遠の場合でも真上に来ません。これは、今回採用いたしました通称「オリンピックバージョン」のレンズの構造により起きることで、絞り指標を設けてある部品の固定方式がレンズ本体へのネジ込み式であるため、必ずしも無限遠の位置と一致せず任意の位置になってしまうことによるものです。当時の「オリンピックバージョン」のレンズを忠実に復刻したためこのような結果となっております。ご了解のほどよろしくお願い申し上げます（レンズの構造上、絞り指標が真上に来るような調整もできませんので、併せてご理解のほどよろしくお願い申し上げます)。

■ 裏ぶたの取り外し、装着について

「ニコンS3 2000年記念モデル」は現在の一眼レフカメラ等とは裏ぶたの開閉方法が異なります。裏ぶたの取り外し・装着の際にフィルムレール、フィルム圧板を傷つけるおそれがありますのでご注意をお願いいたします（フィルムレール、フィルム圧板に傷がつきましても撮影には影響はありません)。
特にフィルムが装てんされていない時は、できるだけシャッター幕保護フィルムシートを使用してシャッター幕、フィルムレールを保護してください（同シートは紛失しないようにご注意ください)。
なお、フィルムまたはシャッター幕保護フィルムシートがない時に裏ぶたを装着する場合は、製品の傷つきを最小限に押さえるため、裏ぶたのフィルム圧板とボディ内部のフィルムレールとがすれ合う距離が短くなるよう、次のような手順で装着してください。

(1) 裏ぶたのかぶせ部分とカメラボディのかみ合わせ部分との距離（図1のⒶ）がなるべく小さくなる位置で裏ぶたをかぶせます（図1)。
(2) 裏ぶたをカメラに軽く押し当てながら静かにスライドさせて、完全に閉じます（図2)。

（図1）

（図2）